

障害持つ人の移動の選択肢に

重い障害があり一人での移動が困難なため家族や施設の送迎に頼る障害児・者にとつて、公共交通の一般タクシーはどこか「遠い存在」だ。そこでUDタクシーの乗車体験を通じて公共交通による移動を選択肢に加え、外出機会を広げてもらおうという試みが、旭区の市立左近山特別支援学



2月の10日と23日、横浜市内で行われた。福祉有償運送のNPO団体「かながわ福祉移動サービス」が、横浜市健康福祉局障害自立支援課が共催し、鶴見区「希望」と旭区の市立左近山特別支援学

かながわ移動ネットと横浜市 UDタク乗車体験会

川県タクシー協会横浜支部と協働したタクシー会社と障がい者の間を取り持ちスムーズな利用につなげる登録制の「か

いすを使う。参加者らは実際に乗車できず、車内の高さや幅、車いすの固定方法などを熱心に質問。乗降動作の際、乗務員と支援者がどう役割分担するのかなど細かく確認していた。

23日に参加した一人、都筑区の横浜市多機能型拠点「つぎの家」で相談員を務める小林秋子さんは「一般のタクシーにはテイルトの車いすでは乗れないと思っていた。乗れると確認できたことはとてもうれしいうれしい移動に関し目が開かれ、希望が湧いた」と息を弾ませた。

情報提供に課題

一方、UDタクシーの認知度や情報提供は途上といえ「初めて知った」という福祉関係者、「区内に何台あるのか」「どうやって呼ぶのか」といった質問が飛び交った。タクシー会社も「認知度が上がれば帰省や観光、空港送迎といった利用も生まれたいと思う」。ボランティアら

自立の喜び

自身の姿勢を保てない重度障害者は、傾斜が付けられて頭を支える装置の付いた「テイルト」と呼ばれる大型の車

家族への介助、乗降動作を熱心に行う（2月23日、横浜市旭区）